

**BLOOD SPORTS®****RACING**  
SUPER TAIKYU PROJECT

PRESS RELEASE

【2017 Super 耐久】レースレポート Rd.1in もてぎ

**We  
Got  
2nd.  
Place.**Super Taikyu Rd.1  
Twinring Motegi  
BLOOD SPORTS

ブラッドスポーツは昨年よりもさらに盛り上がるS耐もてぎラウンドでフル参戦2シーズン目を迎えた。昨シーズンで学んだ、スピードよりも生き残って戦略で上へ繰り上がる作戦が功を奏し、上位がトラブルで脱落する幸運に恵まれながら、初戦から待望の2位 表彰台を獲得することができた。

## ■大会概要

大会名: 200x2Races MOTEGI Opening Stage  
開催地: ツインリンクもてぎ(一周: 4.801km)  
開催日: 4/1~4/2(日) 来場者数: 12,500人

## ■ツインリンクもてぎサーキット・レビュー

4/1 Gr.2 予選/決勝 ST-R/1/2/5  
(天気:曇り/コース状況:ドライ)  
予選18位/24台 ST5クラス 7位/13台  
決勝 ST5クラス 2位:85周回/13台  
4/2 Gr.1 決勝 31台 ST-X/3/4  
(天気:曇りコース状況:ドライ)

## ■ Team Blood Sports

車両名:  
ネットトヨタ京華 BLOOD SPORTS WM☆Vitz  
ドライバーラインナップ:  
A: 大西隆生 B: 三木孝浩 C: 大岩浩気**BLOOD SPORTS®**  
**RACING**OFFICIAL WEB SITE [www.bloodsports.jp](http://www.bloodsports.jp)

## OUR PARTNERS

ネットトヨタ京華 株式会社  
株式会社 エクセディ  
株式会社 オーエムシージャパン  
株式会社 G-7ホールディングス  
エムケーカシヤマ株式会社  
株式会社 レイズ  
株式会社 深井製作所  
立正オートサービス株式会社  
株式会社 ケーユー  
株式会社 スピリットパフォーマンス  
西陣金欄  
株式会社 エイチ・ピー・アイ  
株式会社 タニダ  
株式会社 ワークスベル 順不同**NetZ** ネットトヨタ京華**Moty's****Winmax****RAVS**

embrella.

**EVANS****KU****SPIRIT**  
RACING STOCKS

西陣金欄

**MPI****JURAN**  
DRIVEN BY MOTOR SPORTS**UIG**  
UIG Market.....  
チーム ブラッドスポーツ は皆の夢と希望をのせて走るチームです。



## DAY.1 公式練習 天候:晴れ/路面:DRY

2017シーズンが幕を開ける。今シーズンより車両名を【ネットトヨタ京華 BLOOD SPORTS WM★Vitz】とし、名前の通りチームの地元京都のNetzディーラー様がパートナーに加わった。ワンメイクのVitzレース経験者からドライバーを選出するチームの方針がより加速するコラボレーションになることを目標にチームもより気合を入れてレースウィークをスタートした。

今回はAドライバー 大西選手が86/BRZプロクラスヘエントリーのため、スケジュールを考慮した戦略にシフト。公式テストで残した課題をこの1ヶ月で改良し、その確認のためのチェックRUNと、タイヤに優しいセット、燃費を採る。A→B→Cと順番に走行し最後にピットストップの練習を繰り返してDAY.1終了。

ベストタイムは昨年をコンマ3更新。周回ペースの方は、トップを除きなんとか、真ん中あたりはキープ出来るような事がわかり安心した。

## DAY.2 公式予選 天候:曇り/路面:WET→DRY



Aドライバー予選は、前日からの雨でWET路面となった。パワー差が縮まるチャンスだったが、午後からの決勝時の予報はDRY。Bドライバー予選ではレインタイヤをチョイス。路面が乾きながらの微妙なコンディションだったが残念ながらラスト2LAPでスリックをチョイスした車両が路面を捕まえる。ペースアップしたTOPとは4秒86の差がついた。Cドライバー予選はDRYコンディションに。BLOOD SPORTSは3人のドライバーのタイム差が僅かなため、110%ルールは難なくクリア。決勝にむけたセットアップを担当。各ドライバーのfor the Teamの精神に応えるためにクルー全員、決勝前に気持ちにより結束を深めることができた。そして、この第一戦でチームはクラスで7番目のスピードだと確認できた。



### TOTAL 4'53.645 (A/B合算) ST5クラス 7位 / 総合18位

- #700 J'S RACINGホンダカーズ浜松北ダークみきゃんFIT : 4'47.958
- #2 THE BRIDE FIT : 4'48.124
- #69 J'S RACINGホンダカーズ浜松北みきゃんFIT : 4'49.953
- #57 ホンダカーズ桶川・V-BOX・セキショウFIT : 4'53.213
- #48 GO&FUNホンダカーズ野崎エンドレスFIT : 4'53.645
- #88 村上モータースMAZDAロードスターND : 4'53.413
- #11 ネットトヨタ京華 BLOODSPORTS WM★Vitz : 4'53.645
- #66 odula MAZDA DEMIO 15MB : 4'55.073
- #37 DXLアラゴスタNOPROデミオSKY-D : 4'56.388
- #2 TEAM221 BOMEX with オートラボ ND5RC : 4'57.326
- #50 LOVE DRIVE RACING ロードスター : 4'57.403
- #32 Nissoku ND ROADSTER : 4'58.015
- #213 WAKO'S★GenesisPURE★WM★Vitz : 5'00.567



■Aドライバー 大西 隆生 選手 2'26.829

ST5クラス 3位 WET宣言によりレインタイヤで予選アタック。直線の速い他車とパワー差が縮まりFFに有利な条件が重なり、TOPとコンマ8秒差の位置につけた。WエントリーのFR車、86/BRZと器用に乗り分け実力を発揮した。



■Bドライバー 三木 孝浩 選手 2'26.816

ST5クラス 9位 WET→DRYへ路面状況が変わるタイミング、レインタイヤでアタックし、序盤上位であったが、ラスト2周でスリックをチョイスした車両がタイムアップ、読みが外れた結果、残念ながら、いつもの熱い走りが見れなかった。



■Cドライバー 大岩 浩気 選手 2'20.855

ST5クラス 7位 DRY路面に変わリスリックで走行。予選順位は確定し、スタートドライバーが決まっていたので決勝ペースを見据えての走行に。アタッカーでは無いため、与えられた仕事をチームプレイに徹して貢献した。



## DAY.2 PITウォーク



2017シーズンも2015,2016スポットで活躍してくれた「愛聖りさ」が引き続きBLOOD ANGEL をレギュラーで参戦。#11 ネットトヨタ京華 BLOOD SPORTS WM★Vitz の走る、Gr.2は土曜日決勝がほとんどとなり、ファンの皆様にお会いする機会が減った事が残念ではあるがチーム一体となり応援してくれる姿に今年も沢山の方がサーキットへ足を運んでくださると期待大。また愛車がVitzなので、チームを応援しますという声も沢山頂けるようになり、この時間がチームにとってもサポート企業にも大切な時間になっている。もっとファンの方々と交流を持てる機会が増えるように願う。

## DAY.2 公式決勝レース 天候：曇り／路面：DRY



### ST5クラス 2位／総合13位

	Best Lap
1. #700 J'S RACINGホンダカーズ浜松北ダークみきゃんFIT	:2'18.921
2. #11 ネットトヨタ京華 BLOODSPORTS WM☆Vitz	:2'20.121
3. #88 村上モーターズMAZDAロードスターND	:2'19.358
4. #48 GO&FUNホンダカーズ野崎エンドレスFIT	:2'18.799
5. #37 DXLアラゴスタNOPROデミオSKY-D	:2'21.680
6. #66 odula MAZDA DEMIO 15MB	:2'19.603
7. #2 TEAM221 BOMEX with オートラボ ND5RC	:2'20.528
8. #32 Nissoku ND ROADSTER	:2'20.511
9. #57 ホンダカーズ桶川・V-BOX・セキショウFIT	:2'19.512
10. #69 J'S RACINGホンダカーズ浜松北みきゃんFIT	:2'19.036
11. #2 THE BRIDE FIT	:2'18.808
12. #213 WAKO'S★GenesisPURE★WM★Vitz	:2'21.373
以上順位認定・以下フィニッシュライン不通過	
#50 LOVE DRIVE RACING ロードスター	:2'21.997

国際格式のレースに参加している事を感じさせてくれる国歌斉唱のあと、大岩 選手のドライブで2017シーズン最初の200分耐久が7位からスタートした。戦う相手は同じVitzをのぞいて全車ストレートスピードが速い。11号車はコーナリング重視でタイヤ、ブレーキに負担がかかるため、今年も11号車の目標は生き残って予選の順位から上を目指す。そして、今年からST5クラスは給油装置の変更があり給油の時間が大幅短縮になったため、ピットストップも大切な勝負の分かれ道になる。作戦は3ストップの予定、アベレージタイムを設定し、あとは回りのチームの状況を確認しながらペースをコントロールする。11号車は序盤の混乱の最中8位を走るがペースは昨年よりも1秒速かったため、無理せずキープ。予定どおりのステイントで大岩→三木へ。他車トラブルがあり、この時点で6位でコースへ復帰。しかし、このステイント思ったよりペースが上がらない。トップと比べ1.5秒のラップ差。どうやら思ったよりも消耗が激しく予定を早め、



ピットイン 三木→大西へ。しかし、この早めのストップが功を奏す。他のロングステイントで繋ぐチームがタイムをドロップする中、タイムを取り戻した11号車がポジションをあげ、ついに3位に。残り1時間、最後の給油に向かっている中、すぐ後ろを走る車両がピットインそして、前車がピットインする間に大西選手が頑張り、ポジションを2位にアップ。その後、最後の給油を終えてポジションそのままコース復帰。しかし、先に最後のピットインに入った後続車がペースを上げて猛追する。なんとかラスト40分を逃げ切り、トップの車両ともストレート1本分のところまで迫るが、そのまま200分を迎えてゴール。初戦を大金星、昨年チャンピオンチームをのぞく11台を抑えて2位入賞。スピードで7番手の11号車には幸運な結果となった。次戦以降、また厳しいレースになることが予想されるが、まずは完走を達成できた事を素直によろこびたい。

スポンサー各位、応援してくださっている皆様、引き続き応援よろしくお願い致します。

レポート : Satoru Eguchi